

2018. 5. 31

平和の花

一人ひとりの内側に

学校法人平和学園
平和学園小学校
2018年度 学校だより 第3号
〒253-0031

神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2

Phone 0467-87-1662/0131

Fax 0467-87-0411

サイト <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

年間聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」
コリント信徒への手紙一 13章13節

小学校の春は、新しい友だちの学校生活を支える高学年の児童の姿がありました。そして、少しずつ学校の生活に慣れてきた一年生。5月には初めての自然教室（宿泊行事）、感謝の日礼拝があり、日常生活の中に行事の準備も含まれてきました。考えること（自分のこと、友だちのこと）、クラスで力を合わせることや平和学園小学校の児童として周りの人とどのように関わっていくかなど、一年生でも作り上げていくための課題はたくさんあります。一年生が無理なく、楽しみながらその課題に向き合い乗り越えられるように先生方も上級生も関わります。その姿から思うことは、平和学園小学校の少人数制だからできるのだということでした。時には厳しく、時には優しく、自分たちが経験してきたことを、伝えていきます。リレー選手が手から手へとバトンを繋いでいくように、平和学園が大切にしてきたものが受け継がれていくように、児童自ら行動を起こしてくれています。

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」 マタイによる福音書22：37～39

一年の始まりに自然教室があるのは、少々早いのではと思われる方もいらっしゃるかもしれません。一年生だけではなく他学年も、進級したばかりでの行事で複雑な気持ちを抱えている児童もいます。しかし、子どもはたくましい。淋しさも不安も心配も友だちと一緒に、時には先生も一緒にその気持ちに寄り添い、解決策を見つけていきます。下級生は自分の生活が大変ですが、高学年は班をまとめていく大変さも目の当たりにしながら、忍耐強く下級生とかわります。この経験は他者とともに生きていくかという経験の第一歩と言ってもよいでしょう。このような様々な事柄を自分のことのように考えていく経験が、ずっとず

っと大人になっても積み重ねられていくのです。

5月26日（土）には賀川村島記念講堂で感謝の日礼拝を行いました。お話は4年生担任の石黒先生でした。題名は「命を燃やす」…石黒先生のご両親のお話でした。お母さまがご病気になった時に、小さな頃ご両親が石黒先生を愛おしみ、大切に育ててくださったことを思い出し、看病をなさったそうです。お母さまを看病し、少しずつ回復に向かう姿を見ていて、生きていること、生き続けることは時には辛く、病気になっていろいろなことができなくなった自分を知る等の不安を抱えることもあり、楽しいことばかりではない。でも神さまからいただいた命、神さまに愛されて生まれてきたからこそ、命を輝かせて一生懸命生きようとしているお母さまの姿に、そして傍らのお父さまの姿に心を揺り動かされたという石黒先生のお話に胸が詰まりました。

児童の発表も、家族だけではなく命ある様々なものに感謝の気持ちを表していました。今の自分の素直な気持ちがよく表れていて、全校児童に「ありがとう」というおもいがいっぱいでした。教育を考えた時「子どもを理解」とよく言われますが、本当に大人は理解できているのだろうかと思う時があります。ちょっと一呼吸して、あたたかなまなざしで子どもの姿を見てください。きっと心の中の言葉が聞こえるのではないのでしょうか。

